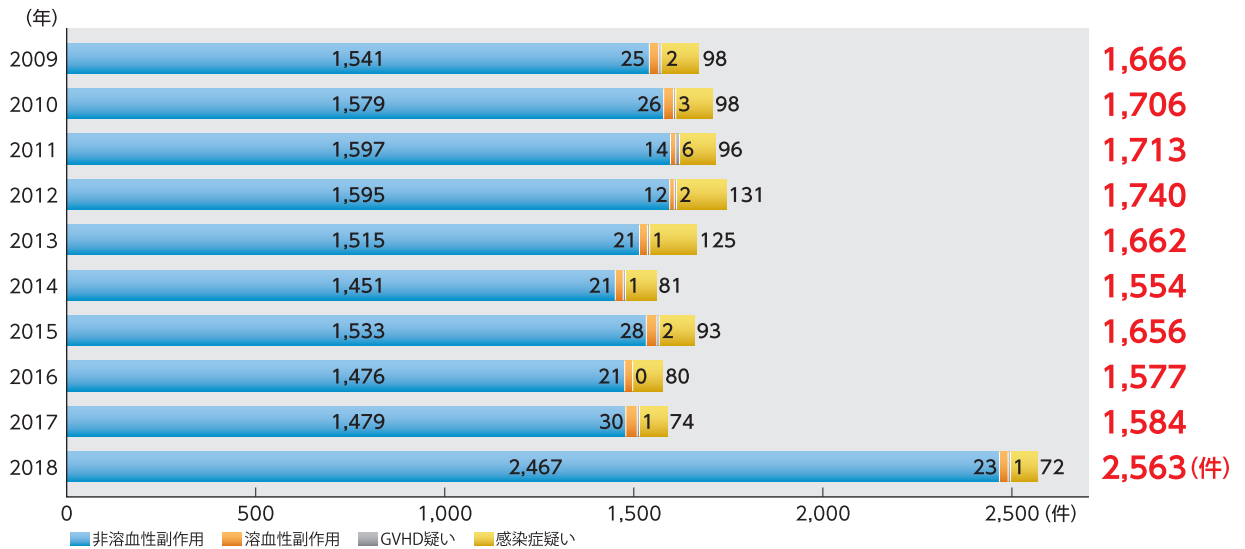


赤十字血液センターに報告された非溶血性輸血副作用-2018年-

2018年の1年間に、医療機関において輸血による副作用・感染症が疑われ、赤十字血液センターに報告された症例のうち、最も報告数の多い非溶血性輸血副作用についてお知らせします。

副作用・感染症報告数の推移及び副作用の種類 (輸血との関連性なしとされた症例も含まれます。)



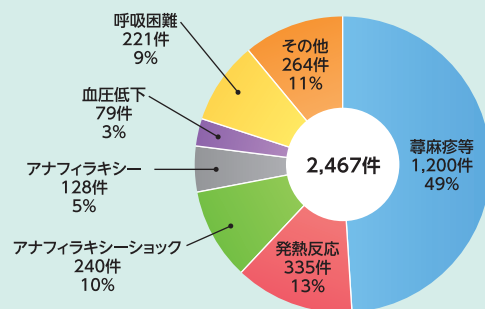
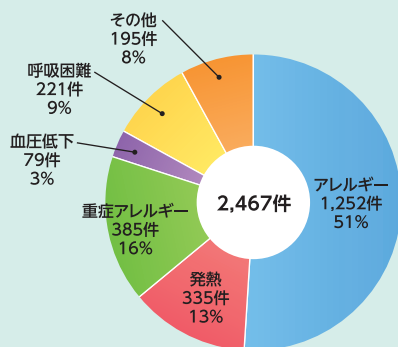
2018年の非溶血性輸血副作用報告数は2,467件であり、輸血による副作用・感染症報告数2,563件の96.3%を占めていました。2018年1月から輸血副作用・感染症の調査方法を変更したことにより、前年に比べて報告件数が約1.6倍増加しました。

非溶血性輸血副作用 (2018年)

■非溶血性輸血副作用の分類の変更について

輸血副作用・感染症の調査方法の変更に伴い、2018年から「蕁麻疹等」「アナフィラキシーショック」「アナフィラキシー」等のアレルギー性反応の分類を「アレルギー」及び「重症アレルギー」に変更しました。

新分類	従来分類
<ul style="list-style-type: none"> アレルギー 重症アレルギー 発熱 血圧低下 呼吸困難 [輸血関連急性肺障害 (TRALI) 輸血関連循環過負荷 (TACO) を含む] その他 	<ul style="list-style-type: none"> 蕁麻疹等 アナフィラキシーショック アナフィラキシー 発熱反応 血圧低下 呼吸困難 [輸血関連急性肺障害 (TRALI) 輸血関連循環過負荷 (TACO) を含む] その他



■使用製剤・症状別副作用報告数(対供給本数に対する頻度)(2018年)

製剤	血小板製剤*	赤血球製剤*	血漿製剤
供給本数	808,179	3,254,881	921,141
アレルギー	714件(約1/1,100)	253件(約1/13,000)	198件(約1/4,700)
重症アレルギー	167件(約1/4,800)	93件(約1/35,000)	87件(約1/11,000)
発熱	76件(約1/11,000)	235件(約1/14,000)	5件(約1/180,000)
呼吸困難	26件(約1/31,000)	62件(約1/52,000)	9件(約1/100,000)
血圧低下	13件(約1/62,000)	51件(約1/64,000)	9件(約1/100,000)
心原性肺水腫	8件(約1/100,000)	29件(約1/110,000)	4件(約1/230,000)
TRALI	2件(約1/400,000)	2件(約1/1,600,000)	0件
TACO	5件(約1/160,000)	29件(約1/110,000)	5件(約1/180,000)
その他	52件(約1/16,000)	121件(約1/27,000)	9件(約1/100,000)
合計	1,063件(約1/760)	875件(約1/3,700)	326件(約1/2,800)

上記製剤には、放射線照射製剤及び未照射製剤の両方が含まれます。また、2種類以上の製剤が使用された症例は除外しました。

※洗浄赤血球製剤、解凍赤血球製剤、合成血液、洗浄血小板製剤(HLAを含む)の使用症例は除外しました。

■照射洗浄血小板製剤による副作用(2018年)

照射洗浄血小板製剤の輸血により疑われた副作用が15症例(13名)報告され、うち1症例が重篤症例でした。

重篤症例の受血者は、その後に照射血小板製剤及び照射洗浄血小板製剤を輸血されましたが、副作用は認められていません。

副作用報告 15件	
アレルギー	6
発熱	6
血圧低下	1
その他	2

照射洗浄血小板製剤 12,370本

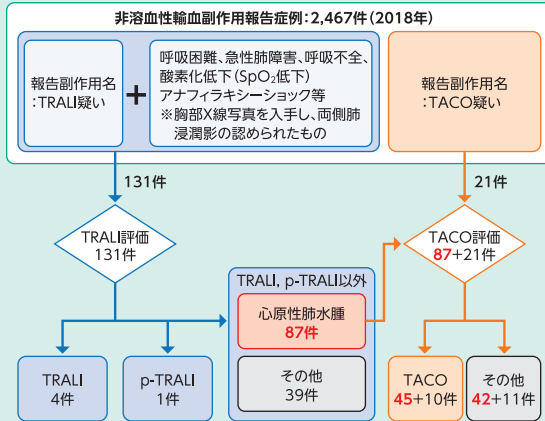
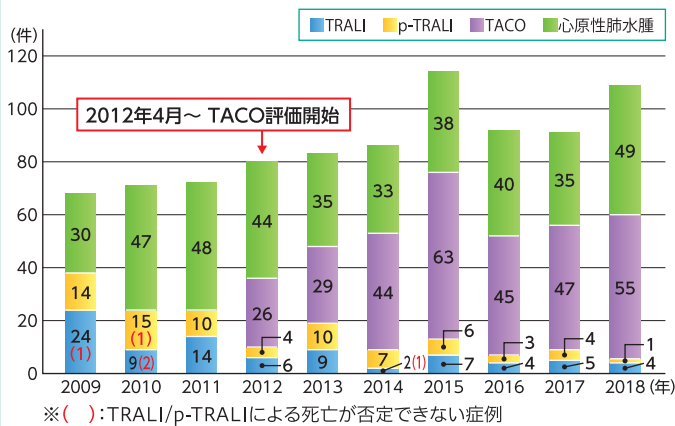
供給した99.9%に副作用報告はありませんでした。

【洗浄血小板の適応】

- ◆ アナフィラキシーショック等の重篤な副作用が1度でも観察された場合。
- ◆ 種々の薬剤の前投与の処置等で予防できない、蕁麻疹、発熱、呼吸困難、血圧低下等の副作用が2回以上観察された場合。
- ◆ やむを得ずABO血液型不適合の血小板濃厚液を輸血する場合、輸血しようとする製剤の抗体価が128倍以上の場合、または患者が低年齢の小児の場合。

■TRALI、TACO症例の推移(2009年～2018年)

呼吸困難を呈した輸血副作用症例のうち、輸血関連急性肺障害(TRALI)または輸血関連循環過負荷(TACO)が疑われた症例について、診断基準(TACOについては日赤評価基準)に基づいて評価した件数です。



2018年はTRALI疑いとして報告された症例及び症状からTRALIが疑われ、TRALI評価対象とした症例131例のうち、TRALI(またはp-TRALI)と評価された症例は5例(3.8%)でした。一方、TRALI評価対象症例のうち最終的にTACOと評価された症例が45例(34.4%)もありました。

輸血用血液製剤の使用による副作用・感染症が疑われた場合には、直ちに赤十字血液センター医薬情報担当者までご連絡ください。また、原因究明のために、使用された製剤及び患者の検体等の提供をお願いすることがあります。なお、使用された製剤及び患者の検体は「血液製剤等に係る遡及調査ガイドライン」を参照のうえ保存してください。

輸血情報 1907-168

(発行元)

日本赤十字社 血液事業本部 技術部 学術情報課
〒105-0011 東京都港区芝公園1丁目2番1号
※お問い合わせは、最寄りの赤十字血液センター
医薬情報担当者へお願いします。



日本赤十字社 医薬品情報ウェブサイト

製品情報・輸血情報等についてはこちら

日本赤十字社 医薬品情報 検索

スマートフォン・タブレットにも対応しています。

